

2020年度 日本貿易振興機構アジア経済研究所
業績評価委員会

実施報告書

2021年9月

アジア経済研究所 研究企画部

本報告書の構成

1. アジア経済研究所 外部業績評価の概要 1～5
2. 研究成果刊行物の外部査読結果 6
3. 外部業績評価の結果＜評価軸（2）＞
～創出された研究成果にかかる外部評価 7～13
4. 外部業績評価の結果＜評価軸（3）＞
～実施した学術ネットワーク活動にかかる外部評価 14～18

【1】外部業績評価の実施の背景

アジア経済研究所の業績評価は、「第5期中期目標」(2019～2022年度)に基づいて実施します。業績評価にかかる一部(評価軸2および3)については、業績評価委員会からの総合評価を受ける必要があります。

「日本貿易振興機構 第5期中期目標」(抜粋)

(4) 我が国企業活動や通商政策等への貢献

アジア経済研究所は、その目標設定について、独立行政法人通則法における国立研究開発法人の目標設定に関する規定を準用し、「研究開発の成果の最大化その他の業務の質の向上に関する事項」を次のように定める。

(学術研究成果の最大化を通じた政策立案への貢献)

アジア経済研究所は、学術研究によって蓄積された研究資源を活用し、効果的かつ効率的な幅広いアウトリーチ活動を通じて、我が国の政策担当者やメディア、経済界、国民各層、さらには新興国等の政府、産業界、市民社会等にも幅広く積極的に研究成果を還元し、我が国企業の貿易投資の拡大ならびに我が国政府の通商政策立案の基盤となる質の高い分析と情報を提供する。

政策立案への貢献にあたっては、政策担当者のニーズや政策課題を踏まえた研究テーマの選定や、中間報告や定期ブリーフィングなどによる政策担当者との緊密なコミュニケーションの実施などにより、顕在化している政策課題に対応した世界水準の学術研究を実施するほか、現時点で顕在化していない中長期的な政策課題にもなり得るアジェンダを提示することで、政策立案への広範な貢献を果たす。

(付加価値の高い学術研究成果の創出と蓄積)

アジア経済研究所は、前項に示した「学術研究成果の最大化を通じた政策立案への貢献」を実現するため、我が国におけるアジア地域およびその他の地域に関する研究の拠点として、国際的な政治・経済・社会情勢等、中長期的かつ革新的な視点に立った分析を通じて、大学や民間企業では実施し難い先駆的かつ独創的な研究活動を実施し、世界の公共財となり得る付加価値の高い研究成果を創出し、良質な研究資源を蓄積する。

新たな知見を獲得し、新たな付加価値を生み出す基盤となるこれらの研究活動を通じて、特に、高い専門性をもつ多様な研究者の集積を強みとして、国際的な政治・経済・社会秩序の変容や技術革新がもたらす産業構造の変化ならびにこれらが我が国を含めた国際社会に与える影響などについて、国・地域・分野を横断した研究を強化する。また、持続可能性や包摂性の追求が問われる地球規模の課題について、我が国の国益に資するだけでなく、世界の発展への貢献にも繋がる研究成果を創出する。

(国際的な研究ハブ機能と学術情報プラットフォーム機能の発揮)

アジア経済研究所は、上記目標を実現するための方策として、世界の研究機関・研究者等とのネットワーク形成を通じ、国際機関や海外の大学・研究機関との共同研究等を推進する。また、国内外の優れた研究人材を活用しながら、国際的な研究ハブとしての機能を高め、蓄積された研究資源を活用して世界への知的貢献を行う。

そのための必須機能として研究マネジメント機能をさらに強化するとともに、図書館の資料情報基盤整備や情報発信機能の強化を通じて、アジア地域およびその他の地域に関する学術研究の知的基盤をなす公共財として、学術情報プラットフォーム機能を発揮する。

「日本貿易振興機構 第5期中期目標」(抜粋)(つづき)

【アジア経済研究所に係る評価軸及び関連する指標】

▶ 評価軸(1)学術研究成果の最大化を通じた政策立案への貢献

(評価指標)

- ・研究成果の効率的・効果的なアウトリーチ活動の実施
- ・研究成果のアウトリーチ活動を通じた、我が国のメディア、経済界、国民各層、新興国等の政府、産業界、市民社会への還元による社会的効果
- ・政策研究対話における政策担当者からの評価

(モニタリング指標)

- ・講演会・セミナー・国際シンポジウム等の開催件数
- ・政策研究対話の実施件数
- ・メディア等における取り上げ件数
- ・4段階評価で上位2つの評価を得る割合が8割以上(アンケート形式)

▶ 評価軸(2)付加価値の高い学術研究成果の創出と蓄積

(評価指標)

- ・具体的な先駆的かつ独創的な付加価値の高い研究成果の創出状況

(モニタリング指標)

- ・誌上、ウェブサイト上または口頭での論文発表件数
- ・**創出された研究成果の外部評価(業績評価委員会による総合評価)**

▶ 評価軸(3)国際的な研究ハブ機能と学術情報プラットフォーム機能の発揮

(評価指標)

- ・新たに形成した又は維持している学術ネットワークの量と質
- ・学術情報センター等における学術情報の蓄積と運用状況および活用状況

(モニタリング指標)

- ・国際学会・国際会議等への参加数および招待講演数
- ・研究所が主催・共催・参画した国際会議等の開催数
- ・**実施した学術ネットワーク活動の外部評価(業績評価委員会による総合評価)**
- ・学術情報・データ蓄積等の発信(掲載)・アクセス件数・ダウンロード件数

アジア経済研究所では、業績評価のための3つの評価軸があります。

このうちの2つの評価軸(2&3)については、**外部有識者で構成される業績評価委員会での評価が必要**になります。

＜評価軸(2)＞
研究成果

＜評価軸(3)＞
学術ネットワーク活動

【2】外部業績評価の流れ

①2020年度に発行された研究成果刊行物の外部専門員による評価を受けたのち、②外部業績評価委員会による評価軸(2)、(3)にかかる評価を受けました。

【2020年度にかかる業績評価スケジュール】

- ・2020年12月～
2021年2月 ①2020年度に発行された研究成果刊行物の専門委員による評価
- ・2021年4月 ②外部業績評価委員会による評価軸(2)、(3)にかかる評価
(各委員による評価票への記入)
- ・2021年5月 研究所にて②に基づく評価票を集約・とりまとめ
→業績評価委員会の評価(外部評価)を踏まえ、ジェトロ全体の法人評価(自己評価)の作成
- ・2021年6月 ジェトロ全体の法人評価(自己評価)の確定
6月末迄 法人評価(自己評価)を主務大臣(経済産業大臣)に提出
- ・2021年8月 主務大臣(経済産業大臣)による各所管独法の評価確定
- ・2021年9月 各独法の法人評価結果の公開。
併せて、アジア経済研究所 業績評価委員会による評価結果を
研究所のウェブサイトにて公開(委員氏名は匿名)

【3】外部業績評価の実施方法

「研究成果」(評価軸2)および「学術ネットワーク活動」(評価軸3)にかかる、業績評価委員会での評価の実施上、以下の5つの設問(評価項目)を設けました。

【評価票での設問内容】

1. <評価軸(2)>創出された研究成果の外部評価について

「大学や民間企業では実施し難い先駆的かつ独創的な付加価値の高い研究成果が創出されているか」

- 【設問1-1】 アジア経済研究所が2020年度に実施した研究課題(1～74)のうち、特に優れた研究成果と思われるものを選び、その理由をご記載ください(複数可)
- 【設問1-2】 アジア経済研究所が2020年度に刊行した刊行物(1～17)または発表した論文(a～w)のうち、特に優れた研究成果と思われるものを選び、その理由をご記載ください(複数可)
- 【設問1-3】 アジア経済研究所が2020年度に実施した研究活動全般について、その評価をご記載ください

2. <評価軸(3)>実施した学術ネットワーク活動の外部評価について

「国際的な研究ハブ機能ならびに学術情報プラットフォームとしての機能を発揮しているか」

- 【設問2-1】 アジア経済研究所が2020年度に実施した研究ネットワーク活動(1～10)のうち、特に学術的意義の高いと思われるものを選び、その理由をご記載ください(複数可)
- 【設問2-2】 アジア経済研究所が2020年度に実施した研究ネットワーク活動全般について、その評価をご記載ください

【4】業績評価委員会の構成

業績評価委員会は、各委員の地域・専門分野のバランス、専門分野における業績と幅広いネットワークなどを考慮し、構成されています。

①石川 城太 一橋大学大学院経済学研究科 教授

(50音順)(敬称略)

【専門分野】 経済政策、国際経済学 (元 日本国際経済学会会長)

②絵所 秀紀 法政大学経済学部 名誉教授

【専門分野】 経済政策、インド経済

③遠藤 貢 東京大学大学院総合文化研究科 教授

【専門分野】 国際関係論、現代アフリカ政治

④小川 英治 東京経済大学経済学部 教授、一橋大学 名誉教授

【専門分野】 財政学、国際金融学(元 日本金融学会会長、元 日本国際経済学会監事、元 一橋大学副学長)

⑤粕谷 祐子 慶應義塾大学法学部 教授

【専門分野】 途上国比較政治、フィリピン政治、政治制度論

⑥恒川 恵市 政策研究大学院大学 客員教授

【専門分野】 比較政治学、国際政治経済

⑦丸川 知雄 東京大学社会科学研究所 教授

【専門分野】 中国経済、産業経済

2. 研究成果刊行物の専門委員による評価結果

6

2020年度に発行された研究成果刊行物の専門委員による評価については、以下の11点の刊行物について、それぞれ2名の専門委員が評価(5点満点)を実施しました。

評価対象	上段：研究課題名 下段：刊行物タイトル	著者・編者	評価者	総合評価	評価 平均
【研究会名】現代中国の『村』による資源管理モデルと農村発展 『現代中国の農村発展と資源管理—村による集団所有と経営—』		山田七絵	A B	4 4	4.00
【研究会名】中国をめぐる国際関係：習近平政権の対外政策 『〈米中新冷戦〉と中国外交—北東アジアのパワーポリティクス—』		松本はる香	C D	5 4	4.50
【研究会名】溶解する国家、ベネズエラ：21世紀の社会主義と民主主義 『ベネズエラ—溶解する民主主義、破綻する経済—』		坂口安紀	E F	5 4	4.50
【研究会名】転換期のシンガポール 『転換期のシンガポール—「リー・クアンユー・モデル」から「未来の都市国家」へ』		久末亮一	G H	5 3	4.00
【研究会名】日韓経済関係の新たな展開 『日韓経済関係の新たな展開』		安倍誠	I J	4 4	4.00
【研究会名】アフリカの政治・社会変動とイスラーム 『サハラ以南アフリカの国家と政治のなかのイスラーム』		佐藤章	K L	4 4	4.00
【研究会名】次世代の食料供給の担い手：ラテンアメリカの農業経営体 『次世代の食料供給の担い手—ラテンアメリカの農業経営体—』		清水達也	M N	4 4	4.00
【研究会名】アジア諸国における障害者の法的能力—法の下での平等をめざして— 『アジアの障害者の法的能力と成年後見制度—障害者権利条約から問い直す—』		小林昌之	O P	5 4.5	4.75
【研究会名】インド北東地域をめぐる日印関係：コネクティビティの過去・現在・未来 『India's North East and Japan: Engagement through Connectivity』		村山真弓	Q R	5 5	5.00
【研究会名】インドシナ諸国の中国向け生鮮フルーツ輸出の持続性 『Global Production Networks and Rural Development: Southeast Asia as a fruit supplier to China』		久保公二	S T	4 5	4.50
【研究会名】近代中東の国家形成における宗教と政治：植民地期アルジェリアの事例 『The Islamic Reform Movement of the Association of Algerian 'Ulama', 1931-1954: Between Politics and the Religious Sphere』		渡邊祥子	U V	5 5	5.00
総合平均					4.4

3. 外部業績評価の結果＜評価軸(2)＞

7

創出された研究成果＜評価軸(2)＞(※)にかかる各業績評価委員からの評価については、①「研究課題」、②「刊行物」、③「研究活動全般」の3項目でとりまとめました。

①～③は集約し、＜評価軸(3)＞とともに、アジア経済研究所の法人評価(自己評価)として、主務大臣(経済産業大臣)に提出しました。

(※) ＜評価軸(2)＞

大学や民間企業では実施し難い先駆的かつ独創的な付加価値の高い研究成果が創出されているか

1.外部業績評価＜評価軸(2)＞

①「研究課題」に関する評価結果

+

②「刊行物」に関する評価結果

+

③「研究活動全般」に関する評価結果

2.外部業績評価＜評価軸(3)＞

アジア経済研究所
法人評価
(自己評価)

主務大臣へ
提出

①「研究課題」に関する評価結果

1. 特に学術的価値が高いものとして、

- ①「米中貿易戦争と東アジア経済の変容」
 - ②「新型コロナウイルスが変える世界」
 - ③「アジア国際産業連関表の推計延長と国際サプライ・チェーン分析への応用」
 - ④「経済地理シミュレーションモデルに基づく研究」
- が複数の評価委員から選ばれた。

委員からは、

- ・ 「タイムリーで、社会的に高い貢献が期待できる(①)」
- ・ 「緊急性があり、社会の需要も大きいテーマ。アジア経済研究所でなければなしえない研究(②)」
- ・ 「国際産業連関とグローバル・バリューチェーンを長年研究してきたアジア経済研究所の優位性を存分に活かしている(③)」
- ・ 「複数の国際機関(ADB, 世銀など)とも共同でインフラ関連プロジェクトの経済効果試算を行う研究で、学術のみならず政策面でも成果を挙げている(④)」などのコメントを得た。

また、1969年から継続している「アジア諸国の動向分析」についても、「豊富な研究者集団という強みを生かした50年にわたる継続的取り組みとして、高く評価」、「タイムリーな情報発信を行うユニークなプラットフォームを有するのは、国内ではアジア経済研究所以外には考えにくい」など高い評価を得た。

①「研究課題」に関する各委員の評価内容

得票数順で並べた研究課題名	得票数
【27】 米中貿易戦争と東アジア経済の変容 ※	3
【24】 アジア国際産業連関表の延長推計と国際サプライ・チェーン分析への応用 ※	2
【60】 アジア諸国の動向分析 ※	2
【63】 経済地理シミュレーションモデルに基づく研究 ※	2
【66】 新型コロナウイルスが変える世界 ※	2
【6】 ベトナムにおける格差と世代間移動	1
【11】 中台関係のポリティカルエコノミー	1
【13】 トルコにおける一党優位性	1
【17】 ペルーにおける青果物輸出産業の発展	1
【19】 産業高度化におけるデジタル化推進における取組と課題：タイの事例	1
【23】 マクロ計量モデルの活用	1
【26】 中国・メコン間の協力進展に対する地域各国の政策	1
【28】 アジアにおける関税変化の経済効果	1
【54】 グローバル・バリューチェーンにおける温暖化ガス排出の責任分担アルゴリズムの精緻化と適用	1
【56】 「ビジネスと人権」研究の地平—先進国vs途上国の構図を越えて	1
【58】 グローバルな船員労働市場とアジア	1
【65】 デジタル経済に関する調査研究	1
【68】 中国の全要素生産性と資源のミスマロケーションに関する再評価	1
【48】 科研費 アフリカにおける伝統的権威の政治的権力の源泉の解明を目指した研究	1

②「刊行物」に関する評価結果

2. 研究成果の刊行物として、

『＜米中新冷戦＞と中国外交 北東アジアのパワーポリティクス』が多くの委員から高い評価を得た。

その理由として、

- ・「現在世界のもっともホットな 이슈の一つ。中国を中軸に据え、アメリカ、日本、北朝鮮、台湾、ロシア5か国とのバイラテラルな関係を主軸にすえた研究で、アジア経済研究所ならではの研究成果」
- ・「バイデン氏が当選する前に書かれているが、2021年現在の国際関係を見るうえでも有効性が高い」等のコメントを得た。

そのほか、以下の刊行物がそれぞれ複数の委員から高い評価を得た。

『India's North East and Japan: Engagement through Connectivity』

- ・「インドについて新たな知見をもたらす社会的意義が高い上に中国が地域秩序に与えるインパクトを見るうえでも重要なテーマである」
- ・「政策立案・実施にも実用的観点から有益」

『Global Production Networks and Rural Development: Southeast Asia as a Fruit Supplier to China』

- ・「きわめてすぐれた、各章がよくまとまった出色の研究成果である」
- ・「政策的な含意が含まれており、アジア研ならではの研究という付加価値がある」

『ベネズエラ——溶解する民主主義、破綻する経済』

- ・「ベネズエラに関しわが国で初めて体系的に政治・経済の動向と特徴を明らかにした著作」
- ・「一冊でベネズエラに対して長年抱いていた疑問が氷解する会心の書」

②「刊行物」に関する各委員の評価内容

得票数順で並べた研究課題名	得票数
『＜米中新冷戦＞と中国外交 北東アジアのパワーポリティクス』 ※	5
『India's North East and Japan: Engagement through Connectivity』 ※	4
『Global Production Networks and Rural Development: Southeast Asia as a Fruit Supplier to China』 ※	4
『2020 アジア動向年報』	4
『ベネズエラ-溶解する民主主義、破綻する経済』 ※	3
『現代中国の農村発展と資源管理』	2
『アジアの障害者の法的能力と成年後見制度－障害者権利条約から問い直す』	2
“Measuring Smile Curves in Global Value Chains”	2
『2019年インドネシアの選挙』	1
『The Diffusion of Public and Private Sustainability Regulation』	1
“Agglomeration economies in the formal and informal sectors: A Bayesian spatial approach”	1
“Maintaining law and order: Welfare implications from village vigilante groups in northern Tanzania”	1
“What Goes Around Comes Around: Export-Enhancing Effects of Import-Tariff Reductions”	1

③「研究活動全般」に関する評価結果

3. 研究活動全般として、

- ・「単独の大学や研究機関では、ここまで多方面の地域・分野に渡る研究は無理だろう。研究成果も学術論文や書籍として着実に刊行されている」
- ・「量的にも質的にも極めて優れており、地域的にもバランスが取られている」
- ・「科研費を64件も獲得していることは、研究所の学術水準が高いことを外部の研究者が認めていることを意味する」
- ・「評価の高いジャーナルに掲載された論文も少なからず見られ、国際的な研究ネットワーク構築のベースとなる貢献」

など、アジア経済研究所がその優位性を活かして多様で質の高い研究成果を創出しているとの評価コメントを多数得た。

また、「学術成果のオープン・アクセス化が進められてきたことは、成果の発信力を高める上での新機軸」、「大きな関心を持たれるコロナの影響について、資源を有効活用して発信していることは、非常に重要な貢献」など、研究成果の発信を評価するコメントも得た。

③「研究活動全般」に関する各委員の評価

1. 研究活動全般にかかる評価内容	得票数
「世界各国の様々な課題を多角的、多面的かつ多様な手法で実施、それぞれに学術的に優れた成果をあげている」	4
「科研費の採択率の高さが学術水準の高さを表す」	2
「研究対象国・地域のバランスが良い」	1
「新型コロナウイルス感染症拡大を取り扱った研究課題が政策提言型研究プロジェクトとして行われている。アジア経済研究所としてその研究成果そして政策提言を社会に発出することは、アジアを始めとする世界にその存在意義が示されるとともに、大きな貢献となることが期待される。」	1
「研究員がそれぞれの地域に対する高い専門知識を持ちながら、新しい研究の視座や研究分析の手法を交えた研究が蓄積されている」	1

2. 研究成果発信にかかる評価内容

「外部英文学術誌への論文掲載本数は、概ね良好と言えよう。」	2
「学術成果のオープン・アクセス化が進められてきたことは、成果の発信力を高める上での新機軸となっている」	1
「様々なイベント開催に関しても、オンライン開催の持つ「強み」をうまく活用することで、タイムリーなテーマに関してその発信力を高める工夫がなされてきた点も、新たな可能性が拓かれているとみることができる。」	1
「全般的には、刊行図書17点のうち4点が英語での出版となっていること、また23点の英語論文が出版されており、英語での国際発信が進んでいることが窺われる。」	1

実施した学術ネットワーク活動＜評価軸(3)＞について、各委員の評価を①「学術的意義の高い活動」、②「学術ネットワーク活動全般」の2項目に集約し、＜評価軸(2)＞とともに、アジア経済研究所の法人評価(自己評価)として主務大臣(経済産業大臣)に提出しました。

1.外部業績評価＜評価軸(2)＞

2.外部業績評価＜評価軸(3)＞

①「学術的意義の高い活動」に関する評価結果

+

②「学術ネットワーク活動全般」に関する評価結果

アジア経済研究所
法人評価
(自己評価)

①「学術的意義の高い活動」に関する評価結果

4. 2020年度に実施した学術ネットワーク活動のうち特に学術的意義が高いものとして、

「COVID-19に関するERIA研究機関ネットワーク(RIN)オンライン・ワークショップ」が多くの委員より挙げられた。

その理由として「RINメンバーとの間で、現下の重要課題であるCOVID-19のもたらす経済社会的課題を様々に議論し、共有する機会を持ったことは、将来的な政策立案を行う上でも重要な基礎作業と位置づけられる意義を持つ」等のコメントを得た。

このほか、コロナ禍で国際会議ができないなかでハイレベルな日中のつながりを確認した「中国社会科学学院(CASS)との国際学術シンポジウム」や、日本とは学術交流があまり活発でないものの地勢的に重要な国であるイランやイスラエルの研究機関とのワークショップ開催が、それぞれ委員から高く評価された。

また、アジア経済研究所が世界経済フォーラム(WEF)とのコンテンツパートナーシップ締結によりWEFの情報ネットワークへ参加したことについて、「研究成果を広く世界に発信する上で極めて重要」との評価を得た。

さらに、国立情報学研究所が運営する図書館間相互利用ネットワーク(ILL)において、アジア経済研究所図書館の貸出受付件数が1,635機関中の2位(2021年2月末時点※)にランキングされたことについて、「有用な図書や資料を蓄積してきた長年の努力の結果」と学術情報の蓄積と国際的な発信の取り組みを評価するコメントがあった。

※2020年度最終結果は1634機関中第2位

①「学術的意義の高い活動」に関する各委員の評価内容

得票数順で並べた研究活動名	得票数
【9】 COVID-19に関するRINオンライン・ワークショップ ※	5
【2】 イラン政治国際問題研究所との新型コロナウイルス感染症拡大下での日本イラン関係およびアフガニスタン問題に関するワークショップの開催 ※	3
【10】 図書館共同利用制度等、関連機関との学術情報ネットワーク活動の実施 ※	3
【3】 インドネシア科学院との新型コロナウイルス感染拡大の社会・経済への影響に関するワークショップ開催	1
【6】 中国社会科学院共催国際学術シンポジウム ※	1
【7】 国際労働機関／日本自動車部品工業会共催オンラインセミナー	1
【8】 RIN（研究機関ネットワーク）会合（オンライン）の開催	1

※ 前頁にて掲載

②「学術ネットワーク活動全般」に関する評価結果

5. 学術ネットワーク活動全般として、

- 「COVID-19への対処の過程で、オンラインを利用したネットワーク活動が種々工夫され拡大したことは、将来の活動にもプラス」
- 「オンラインでの開催という利点を活かし、時事問題に対応した機動的なテーマ設定が出来ている点も効果的」
- 「新型コロナウイルスなどタイムリーなテーマでの学術イベントが活発に行われたことは特筆に値する」

など、国際会議等を開催することが困難な状況にあるなかで、積極的に学術ネットワーク活動を展開し、国際的な研究ハブ機能および学術情報プラットフォーム機能を発揮したことを高く評価するコメントが多く、の委員から得られた。

また、「アイデアス研修事業はアジア経済研究所だからこそ可能な研修事業であり、大変有意義」と、アジア・アフリカ諸国の若手行政官等の育成を通じたネットワーク活動に対する評価コメントも得た。

②「学術ネットワーク活動全般」に関する各委員の評価内容

・委員の評価内容	評価数
・「オンラインを利用したネットワーク活動が種々工夫され拡大したことは、アジ研の将来の活動にもプラスに働く」	2
・「イランやイスラエルなどなかなか交流しにくい国の研究機関とも積極的に交流を行っている」	2
・「新型コロナウイルスなどタイムリーなテーマでの学術イベントが活発に行われた」	2
・「アイデアス研修事業は、アジア経済研究所だからこそ可能な研修事業であり、大変有意義である。今後の継続とさらなる発展に期待したい」	1

IDE-JETRO